

# 別子の同志のために 争議基金を募れ!!

総同盟を愛し、総同盟のために闘ふ、一般組合員諸君！ 別子の同志が日本の資本家、住友を相手に争議を起してから既に一ヶ月になる。

諸君!! 住友は御存じの金持である、従つて一ヶ月や二ヶ月、一年や二年、争議をやつたつて何等、差支ねるところがない、重役は平素の如く、美女を求めて自動車で宗右衛門町へ通ふことも出来るだらうし、又その奥様は、寶石入の指輪を買ふために電話で、天賞堂の番頭を呼出すことも出来るかも知れぬ、然しお互に労働者の方はさうはいかぬ、争議を始めた當日から米代に困る、おかす代に困る。

殊に諸君!! 今度の争議には多くの犠牲者が出た、先づ十二月九日、會社の御用団体、改善會の會員五百名が、喜光地の組合本部を襲撃した際、それを防いだ件に依つて、山内鐵吉、高梨二夫、鈴木悦二郎君外五名が角野署へ、又一月元旦、御影の住友男爵本邸へ暴れ込んだ件に依つて、三木豊、安藝盛、村尾重雄、本田繁夫、小林廣吉の五君が御影署に、而してまた同じく、住吉の重役小倉邸宅で器物を破壊したと云ふ件に依つて、大矢省三君が今宮署に、それと揚げられた、それについて金だ、金が要る、金の心配をしながら別子の同志は戦はなくてはならぬ。

所で諸君!! 資本家は利口だ、同志が金に困つてると云ふことをよく知つてゐる、従つてその腰は飽逆強い……。

諸君!! 別子から、わざと上阪した従業員の代表が、本社に重役を訪ねても、未だ面會せぬ、而してその一方、何と云ふ狂暴!! 公傷で療養中の同志七十名を、年の瀬も迫つた十二月二十六日、突然一片の紙切によつて蹴つた、それもこれも要するに、金のない事を見透してゐるからだ、諸君!! だから吾々は、何を放いても先ず、敵の目算を狂はすために、充分なる争議基金を別子の同志に送らねばならぬ、而してよく知らね、よく戦つて來た別子の同志を救けなくてはならぬ。

諸君!! 同じ総同盟に屬し、同じ階級戦に立つもの、義務として、  
募れ!! 争議基金を募れ!!  
寒が落ち、木枯しが吹く、寒い、冬の日は寒い、然し作ら諸君、別子の同志は、殊に寒いのだ!

大正十五年一月五日

日本労働  
総同盟

大阪聯合會

取扱者 長田孝之  
中川重吉

C4